

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第2回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和5年10月25日(水) 午後 7時00分から 午後 8時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	峯健二委員、西澤利子委員、郭育子委員、福田稔之委員、 強矢奈保子委員、米田清美委員、能登克巳委員、鈴木博委員、 高田明充委員、富田泰行委員、渡邊勝巳委員
欠席委員(者)氏名	土倉知子委員、和田津智郎委員、小野和孝委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 主査：山崎弘輝 主事：笹原康友
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和5・6年度研究テーマについて</p> <p>(2) 令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和5年度第2回社会教育委員会議資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	米田清美委員、能登克巳委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 高田委員長あいさつ</p> <p>3 議事 (1) 令和5・6年度研究テーマについて</p>
高田委員長 事務局 高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。 ・質問、意見はあるか。 ・それでは私から。公民館の利用に際して、団体登録をして活動している利用者がいる一方、開かれた施設として平等に使いたいという考えもあると思う。このギャップをどう埋めていくか。また、大きなイベントがあるため全館貸し切りとなった場合、毎週決まった曜日に活動している団体は活動できなくなる。結論はでないが、それぞれ今後考えていく必要があるように思う。
西澤委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・同感である。11月9日は全館使えないということだが、教育委員会では全館使えない日は事前に分かるものなのか。 ・公民館の年間スケジュールは決まっているため、事前に把握している。休館日などは調整会前に周知すべき事項と考えており、周知が足りなかったとしたら申し訳ない。
西澤委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・8日は立冬であり炉を開ける日である。そのため9日も大事な日であり、施設が使えず残念である。 ・全館休館日は施設管理に必要な停電検査などを実施する日、あるいは週末はホールで大きなイベントがあると貸出できないということがある。活動団体にとって大切な日を職員は分かりかねる場合があるので、ご意見として公民館に伝えていただければ思う。
西澤委員 峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館のあり方をテーマの一つにしても良いと思う。 ・過去のテーマを見ると子どもに対するテーマが多いが、市の高齢者福祉計画の人口を参考にすると、0～14歳の人口より65歳以上の人口の方が1.7倍ほど多い。教育という観点から考えると、社会教育は家庭、学校以外の広く社会で行われる教育と言われているが、高齢化率が高まる中で、自分から進んで、あるいは人から勧められて何か新しいことを

高田委員長	<p>始める形が吉川にできていないと感じている。趣味や稽古に積極的に参加する層は一定数いるが、行事に参加する顔ぶれが決まっている。そういうことに参加していない高齢者は多数いて、社会教育の場に参加できるあり方をこの場で議論できればと思う。背景に、文化連盟とそこに属する団体の会員数は減少しており、30年前に千人いた会員数が今では500名以下である。若い人は加入せず、当時の会員が今も活動を続けている状況であり、このままでは吉川の文化芸術活動が自然消滅するのではと危惧している。65歳以上の高齢者が気軽に社会教育に参加できる仕組みを議論していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育や生涯学習のように大きなテーマでなくとも、高齢者、大人、子どもがどこに行ったら良いか、居場所づくりが整えられればと思う。ここに行けば楽しく過ごせる、そういう居場所づくりができると市の色々な活動が活発になっていくのではないかと。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は民間企業で人事部門に携わってきた。人事は採用と教育の2本柱だが、その経験から2点ほど感じることもある。一点目は、成績優秀な若者が新入社員として入ってくると、知識は豊富だが、その知識の土台となっている基礎力、たとえば古典の名前と作者は知っているが、その中身は読んだことがないということが多い。企業で将来成功する人間は、知識ではなく、根底となる人間力であると感じる。こういったところで学習を深めていけば、将来行き詰まった時に元に戻ることができ、さらに自分なりに進めていけるのではないかと。 ・社会教育として、一つこんなことができないかという提案で、おあしすのパソコンを活用するなどして、生成AIを活用して勉強していくことはできないか。若者は自分が興味を持ったものしか参加しないため、そのようなプログラムができないか。 ・もう一点目として、英語のテストはできるが英語の会話力が低いという場合に、国際友好協会の外国人の方と気軽に英語を使っての対話ができればと考える。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、子どもの虐待禁止条例が話題になった。普段は子育てネットワークに属していて、小さい子どもの親と話す機会があるが、条例が施行されるとほとんどの行動が虐待にあたってしまうと。キッズタウンでも話題になり、小学3年生まで親が付き添わなければいけないのか、登下校もできない、買い物、留守番もできないと。わたし達の感覚と、色々な世代の感覚、議会の方の感覚の差は分からないが、通報しなければいけないとなった時に、そうならないために地域に顔見知りがいれば、安全な地域を作れたら一番良いと話が出た。私の子どもが地域でサッカーをし

	<p>ていた時は、子ども達が自分たちの足でサッカーに行くと、親ではない他の大人の目があり、横断歩道でないところを渡ったら怒られるということはずごく覚えていて、成長には大切なことだったのではないかと思います。峯委員が言うように、高齢者といっても65歳はまだまだ若く、義理の母も73歳だが力仕事を頑張っている。前回の会議で部活動の働き方改革の話も出たが、顧問の先生は熱意で頑張ってくれている先生も大勢いるが、その先生にも家庭があって、その先生の奥さんが支援センターに遊びに来て、土日は部活動で家にいないと。平日はともかく、土日に手伝ってくれる、書道や絵画など座ってできることでも教えてくれる人がいればと思う。少しのきっかけで、高齢者が参画できる仕組みがあれば子育て世代はずごく助かると思う。大きなことでなくとも、得意なことを生かせる仕組みができないか。</p>
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所として、朝から晩までいる必要はなく、ほんの少しでもいきがい、楽しめる所があればと思う。そこから横のつながりができるのでは。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いに誘われて老人会に初めて入った。カラオケ、食事、みんな笑って楽しそうだった。老人会と社会教育は違うものなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターは高齢福祉の要素が強いように思うが、公民館と同じようにいきいきと活動されている方はいると思う。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・顔ぶれを見ると公民館では見ない人たちで、その人たちはその人たちで輪を作って楽しんでいる。良い事だと思う。 ・話は変わるが、京都市は生け花が今年から小学校の必修になった。社会教育と学校教育は違うが、そういうこともあると報告させてもらう。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川でも放課後子ども教室で花を教えていると思うが、そのまちそのまちのやり方、環境があると思う。京都はまちの雰囲気などもあってそうなったのだろう。吉川でもそういったことが見つけられたらと思う。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・峯委員も言っていたが、参加していない人の社会教育のシステムを作ることについては賛成である。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行く人はサークルや老人クラブに行っているが、行かない、じっとしている高齢者をいかにして外に出てもらい自分なりに色々体験してもらうか。色々な講座があっても申し込まないし知らない、そういう人たちに告知する方法も含めて考えていく必要がある。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まさにそのとおりだろう。人は高齢になるにつれ、誰かの役に立ちたいと思っていたりするのだろうし、学びたいとも思うが、チャンスがない、あるいはそういったシステムがなかったりということがあるのだろう。そういう高齢者は多様な人材だと思うので、参加できるシステムがあると良いだろうし、学びたいという方にはそういうものを準備すると。そ

<p>峯委員</p>	<p>のような話し合いができればと思う。わたし自身、月に一度理科教室というものを開いているが、大人の支援者は集まる。一方、子どもは20人募集するが、毎回10人前後の参加である。大人は集まるが子どもは集まらないということがあり、もったいないと思う。参加することで自分自身も元気になり、多くの高齢者がそのように子どもと関われる場があればと考える。そういう方向性で社会教育や吉川を盛り上げていくという話し合いは賛成である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は何かを学びたいという人と、何かを教えたい人、両方いると思う。両方一緒に考えるのではなく、学びたいがどこに行けば良いのか、なかなか外に出ない人をどう呼び込むか。あわせて自分の技術をいかに周りに教えるか、そういう人たちを拾い上げて何かできないかと思う。10年前、吉川のカルタを創る会に参加した。幼稚園児から85歳くらいの人までが参加し、吉川に関連した読み札を作って、読み札に合う絵も作り、年末にカルタとり大会をやっている。子どもとその保護者も盛り上がっている。そういう人たちと触れ合う場所も含めての社会教育かと思う。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できる居場所づくりがポイントだろう。自然とそれに繋がるような仕組みが作れればと思う。
<p>鈴木副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私が気になることは、地域の中の組織が維持できなくなっていることである。地域に目を向けると、新しい会員が入らず、長くいた高齢者は辞めていき役員の成り手がいない状況である。公民館に行く元気、あるいは交通機関があれば良いが、それが無い。「行きたいが足がない」と行けない人もいる。これをどう解決し、地域をどう活性化させていくか、それが大事だろう。また、小学生や中学生も含めた若者をどう地域に引き込んでいくか。地域の中で活躍できる場をどう作っていくか。難しいことだが、手探りに地域でラジオ体操を始めてみた。子どもからお年寄りまで来る。せつかく集まったのだから何かやれないかと考えている。組織を作るだけではなくどう活性化していくか、行政とどう連携して創り上げていくかが課題と考える。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政も横のつながりが少ないように思う。コーディネーターのような人が縦割りではなく横に繋げてくれればと思う。参考までに、なまずサミットは商工課が携わっていたが、他の課の参加はあまり見られなかった。なまず関連でマンホールカードを利活用できるのではと思ったが、在庫はなく、担当課に商工課から話はなかったと。コーディネーターがいればもっと盛り上がったように思う。
<p>鈴木副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横の連携はやってもらいたい。また、前年度踏襲になってしまうことは

郭委員	<p>仕方ないと思うのだが、時代も変わり今までのやり方を変えていかなければいけないということを理解して欲しい。行政と地域の両方で話し合いをして、こう変えていこうと合意できればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も横の連携は大切だと思う。私自身、国際友好協会日本語教室をしているが、昔は外国人のための日本語上達が目的だったが、渡邊委員の言うとおりに今はコミュニケーションの場になってきている。家庭教育、学校教育でもない社会教育の場所だと改めて認識した。居場所づくりというキーワードもあったが、外国から来た人も安心していられる居場所づくりをしていきたい。他の課との連携という視点では、若者支援検討会議に参加しているが、過日の社会教育委員会報告で公民館の若者の利用率が少ないことに驚いた。公民館で若者も参画できるようなことをテーマとして取り入れても良いと思う。また、教員の働き方改革に関連して、学校に通えていないのであれば、日本語教室に来ることもフリースクールとして単位を同じように認めてもらえないか教育課と相談している。生涯学習だけではなく、色々な課が関わることは大事であると感じている。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど外国の方と日本の高齢者、子ども達との交流は大事だなと思ったのは、会話力という教育的な側面でも申し上げたが、日本の少子化対策は移民でしか解決できないと思っている。移民を積極的に受け入れ人口を増やしていく。そのためには人と人とのコミュニケーション能力が生きてくるのではないか。社会教育的な面でも、少子化対策の面でも、国際友好協会さんが行っている活動は重要になってくると思う。
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の所属している団体で気になる点ということで、色々意見を聞いた中で、発達障がいへの理解についての意見があった。民生委員の運営委員会にも出席させていただいているが、高齢者の方以外でも、大人の発達障がい地域でも課題となっていることがあるのではないかと。意外と知られていない部分でもあり、子どもの発達障がいは親の気になる所で、そちらの方は発見されやすいが、大人の発達障がいは分かりにくい部分もある。2023年度より関小学校と南中学校では、特別支援学級のほかに発達障がいの通級クラスができた。それだけ学校の中でも対応が求められている。そのほか保育園の第三者委員も務めさせてもらっており幼稚園の見学にも行くが、園長先生の話では、少し配慮が必要な子が増えてきていると。大人の手が足りないということもあるが、目が離せない子が増えてきている。発達障がいへの理解を、市民の方々に伝える勉強会のようなものがあればと思う。民生委員のほか保育園、幼稚園の先生と話をしても、ボランティアのような形で色々な手助けがあれば、も

富田委員	<p>う少し気軽に散歩へ出かけたりできるのにと。市独自の人材バンクのような登録システムがあれば、目の離せない子どもがいても、そこに行けるのにとという話をいただいた。働ける高齢の方、資格があるけど働けない方が登録できる吉川独自の人材バンクを作り、説明会や登録会があれば面白い企画ができるのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は町内会の仕事を引き受けさせていただいているが、いかにしてコミュニティの一体感を高めていけるのか、住むまちのことを知っていたただき、地域への貢献意識を子どもから若い人、高齢者に思っていたただけるか。それも町内会の役目の一つとっており、市が取り組んでいる社会教育プログラムを住人の人が知っているのか。居場所はあるのに知らない、そういったことをできる限り少なくしたいと思う。情報収集という面では、今朝の新聞で文化財展の開催を知ったが、見損ねてしまい、残念だった。歴史を知る機会が身近にあるのに知らなかった。生涯学習課も苦勞するところなのかもしれないが、情報発信、まずは知らせ方を考えていくこともテーマの一つでも良いと思う。それに関して良いアイデアというものはすぐには思いつかないが、たとえば防災アプリのようなイベントアプリがあると良いように思う。市のホームページを読み解けば分からないことはないが、読み解くことは難しく、読んで分かり易い仕組みがあれば良いと思う。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ホームページは確かにどこを見れば情報が得られるのか分かりづらい。よく「詳細はホームページ」とあるが、そもそもホームページが分かりづらく、そういう人たちもいるのではないだろうか。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> 見逃してしまったのであれば、文化財展は各学校を回るツアーも開催予定のようである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そのほか市民文化祭でも文化財展のパネル展示の企画展を開催予定である。ぜひご来場いただきたい。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> 皆様のご意見のとおりだと思ふ。これだけ意見が出てくるのであれば、何かテーマを一つに絞らずとも、個別に、事務局の方で整理していただき、議論しても良いのではないかと思ふ。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの意見に感謝する。次回テーマ決定になるかと思ふので、事務局に本日の意見のとりまとめをお願いしたい。
事務局 高田委員長 西澤委員	<p>(2) 令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づき説明。 意見、質問はあるか 物価は上昇しているが、交付金額は変わらないものなのか。

福田委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・金額の根拠はあるのか。 ・増額にあたっては、基本的に交付団体に疎明資料を用意いただき説明をいただくものだが、そこまでの要望はないところである。過去には交付対象外となった団体もある中で、財政上増額は難しいところがあり、ご理解をいただいている現状である。
強矢委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A連合会について、コロナの影響があったと思うが、令和4年度は合同家庭教育学級は行われたのか。 ・冬季に講演会を実施しており、今年度の夏季についても実施できたところである。冬季についてもP T Aが検討中と聞いている。
富田委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に「限度額」とあるが、こういう表現のものなのか。 ・たとえば、申請金額がこれよりも少ないと限度額以下となり、逆に超えても限度額が上限となるためこのように表現にさせてもらっている。
富田委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「交付予算額」「交付予定額」のような表現が通常かと思うが、「限度額」とすると、もっと増やしたいといった時に検討の余地がなくなってしまうように思う。 ・市議会に予算案を上程するにあたり、交付金額の案についてはこの時期に決めておく必要がある。理想は一年間を終えてみてというところだが、事務手続き上難しいためご理解いただきたい。
富田委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・交付団体が新しい取組を行いたいといっても、限度額があるためそれ以上は難しいということか。 ・この時期を越えてのご相談は、来年のこの時期までに改めてとなる。我々事務局も予算を増額という場合には財政部門に相応な資料を用意して説明する必要がある。限度額というと聞こえは悪いかもかもしれないが、申請主義のため、ここまで交付ができますという趣旨で限度額となっている。毎年度末に実績報告をご提出いただいているので、報告の場で現状どういった理由でどれだけ足りなかったとご説明いただければ、この場で諮ることが可能である。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことをやりたい、変えていきたいという話があった時に、予算の裏付けがないためできないとならなければと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・交付いただく立場としての話になるが、総会等の場で「額を上げられないか」という話は出てくる。その際は、市のイベントなどで文化連盟はこう活動していると、市民の皆さんに「文化連盟よくやっているな」と評価いただいて、初めてそういった話ができると言っている。そのため、まちのために積極的にそういう活動をして欲しい、そうすれば大きな声で言えますからと。現状としては、ご承認いただければ文化連盟の立場としてもありがたい。

<p>高田委員長</p> <p>委員</p> <p>高田委員長</p> <p>事務局</p> <p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに意見ないようであれば、決をとりたいので賛成の場合は挙手をお願いする。 （全員挙手） ・全員賛成として、社会教育委員会議の意見とさせていただく。 ・議事は以上となるので、事務局へ進行を返す。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は2月中下旬開催を予定。 ・人権セミナーを案内。 <p>5 閉会</p> <p>鈴木副委員長挨拶</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年11月27日</p> <p>署名委員 米田 清美（自署） 署名委員 能登 克巳（自署）</p>	